店で「憬」で展開のポ「憧」展開本格心に人気「プ」ミアム上げと、長とトセわらーフる。豪州産牛肉のサーローフも5千円（税別）で開すインを使ったローストビ投入する。

日本ハムのフラッグシップギフト「美ノ国」

このほか、南日本ハムが九州の豊かな地域性を生かした新規ブランド「ワイルド倶楽部」を発売。これは骨付きハムを骨付きのままブロックで販売するもの。人気のバラエティーセット「宮崎味わい」と合わせて、地域性の強みで売上拡大を狙う。

また、「函館カールレイモン」「鎌倉ハム富岡商会」「ヘルマン工房」「下館工房」「長崎浪漫工房」「トーチクハム」など、こだわりの高付加価値ブランドを幅広くラインアップしている。

『神戸』『黒の誉』などこだわりギフトを展開しているが、今中元は〝和のうまみ〟を追求した『懐食みちば　芳醇』を新発売し、セカンドブランドを強化、1％の寄与を目ざす」

「ローストビーフは道場六三郎氏監修の製品をはじめ、神戸ワインを使用した『神戸厨房』、田崎真也氏監修の『オードブルセレクション』など、真空調理でつくり上げたおいしさと、食シーンに合わせて楽しめる提案を強化し、1％の上乗せを図る」と説明した。

とによりブランドロイヤルティーの向上を目ざし、5％上乗せを図る」

「セカンドブランドは

「伝承シリーズ」の最高峰ギフト「伝承」

ーズでは『と』として伝承〝大〟とえるど主級に「ではしてトかーフユー軸プ』シるこ

トウキョウXが好評

多摩版B級グルメ大会

近年、人気を集めているB級グルメ大会の大多摩地域版「第1回多摩げた食の祭典・大多摩B級グルメ」が5月26、27日の2日間、東京都あきる野市の東京サマーランドファミリーパーク駐車場で開催され、ブランド豚「TOKYO X」を使った青海市の「青梅生まれトウキョウX肉うどん」が見事優勝した。

同イベントには大多摩地域の10市町村からB級グルメ30品が出展され、2日間で3万7千人が来場。どのブースにも長蛇の列が並んだ。審査は品物を購入するごとにメダルがもらえ、その投票数で競われた。各ブースには千枚のメダルが割り当てられており、購入した品物でないものにも投票することができる。

優勝した肉うどんは地元の麺組合がうどんを打ち、薄切りの軟らかな「TOKYO X」豚がふんだんに盛られたことが決め手となった。そのほか「TOKYO X」関連ではX豚と大量に煮込んだしょうゆダレで炒めた青梅市の「トウキョウX濃厚ブラックソース焼きそば」が6位。

2日目に千枚のメダルを配り切り、競技終了2時間前に完売となった福生市の「福生ドッグTOKYO Xハーフカット」が9位と好評だった。なお2位は小菅村の「よちよちヤマメのから揚げ」、3位はあきる野市の「だんべぇ汁」だった。

大勢の来場者でにぎわった大多摩B級グルメ

の15事業者が参加したもの。

食肉事業者は3社で、WAGYU SAMURAI（ミートコンパニオンの海外向けブランド和牛）、山形牛（山形県食肉公社）、近江牛（大吉商店）が出展した。

和牛が展示された3日間は約9万人の来場があり、会場の各ブースには長蛇の列ができ、つねに熱気に包まれていた。WAGYU SAMURAIのコーナーには、8尺

4月度の外食動向

㈳日本フードサービス協会（JF）が発表した4月度の外食産業市場動向調査によると、4月の前半は、業態・業種によっては桜の開花の遅れが幸いした。後半では天候に恵まれないところもあったが、総じて4月は引き続き震災の影響からの回復基調にあった。

業界全体の客数は前年比102・2％と伸び、全体売り上げも前年比103・4％となった。業態別にはすべての業態で前年を上回ったが、とくにディナーレストランとファミリーレストランの伸びが目立った。

ファストフード業態の売上高は前年比2・9％増。業種別では、洋風は新メニューの投入などもあり、客単価が前年比102・5％、売り上げが101・3％とそれぞれ増加したものの、天候不良などの影響で客数は98・8％と伸びなかった。

和風もクーポンや値引きなどで各社がキャンペーンを行った結果、客数は前年並みを確保したが、客単価と売り上げは微減だった。一方、麺類の売り上げは前年比114・2％と引き続き好調。持ち帰り米飯・回転ずしは、東京などで花見需要のピークが4月にずれたことから、売り上げが好調に推移した店もある。そのほかではアイスクリームが堅調に推移し年並みを確保したものの、客数は97・5％と低下、売り上げも97・6％と伸びなかった。

ディナーレストラン業態も同様に歓送迎会が追い風となったほか、震災の反動もあり、客数と客単価が堅調に増加。売上高は108・6％と大きく伸びた。喫茶業態は全国的に雨天日数が多く、一部店舗ではその影響を受けたが、セットの新商品などが奏功し、全体の客数は103・1％、売上高も104・6％と、2月以降は前年を上回り堅調に推移している。

142万株を買い付け

伊藤ハム自己株式

伊藤ハムは、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づく自己株式取得について次のとおり実施した。

取得した株式の種類　当社普通株式▽取得期間　5月14～31日（約定ベース）▽取得した株式の総数　142万1千株▽取得価額の総額　4億4145万996円▽取得方法　東京証券取引所における市場買い付け。